

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

がんゲノム医療の発展に資する情報連携基盤の構築に向けた標準規格の開発研究
情報連携規格の現状調査に関する研究

研究分担者 玉井 郁夫
鈴木 達也

研究要旨：がんゲノム医療に携わる医療機関とがんゲノム情報管理センター(以下、C-CAT)間の情報連携の標準規格を策定するため、医療情報連携の標準規格に関する現状調査を実施した。HL7 ver. 2、HL7 ver. 3、HL7 CDA、HL7 FHIR、CDISC 標準、ISO13606、SS-MIX2、DICOMを調査対象とし、医療従事者向けの概要説明資料を作成した。

A. 研究目的

令和4年度に保険医療情報分野で用いられる情報連携規格としてHL7 ver. 2、HL7 ver. 3、HL7 CDA、HL7 FHIR、CDISC 標準、ISO13606、SS-MIX2、DICOMを調査対象とし、各規格の策定団体が公開している仕様書や資料を基に規格の策定背景、特徴及び適用事例の調査を行った。標準規格は臨床現場でも多く活用されているが、医療従事者はこれらを意識することなくシステムを活用しているのが実態である。令和4年度の調査結果を踏まえ、医療従事者向けに標準規格概要と活用事例における概要資料を作成する。

B. 研究方法

令和4年度に調査を行ったHL7 ver. 2、HL7 ver. 3、HL7 CDA、HL7 FHIR、CDISC 標準、ISO13606、SS-MIX2、DICOMの整理資料は技術的な内容が多く、IT技術職以外の医療従事者にとっては理解が困難な内容となっている。本課題で整理する資料は医療従事者向けのため、医療現場における活用方法を主に記載し、技術論は簡潔に表現することで、今まで医療情報に触れたことのない医療従事者にとってもイメージし易い内容とする。

C. 研究結果

はじめに1章では標準規格の必要性について説明し、標準規格の概略と医療機関における標準規格活用例を図示することで、医療従事者が臨床現場で用いている情報システムと各標準規格の関連性をイメージし易い内容とした。また医療情報規格の歴史についても記載した。2章では各標準規格の特徴について記載しているが、技術要素の関しては極力簡潔に記載し、図を活用することで医療従事者が抵抗なく読めることを意識した。3章はC-CATの取り組み紹介とし、がんゲノム医療における課題点や本研究の概要について記載した。本課題では第0.1版の資料作成を完了した。

D. 考察

特記なし

E. 結論

特記なし

F. 健康危険情報

特記なし

G. 研究発表

1. 論文発表

特記なし

2. 学会発表

特記なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得

特記なし

2. 実用新案登録

特記なし

